

日頃の備え

家族で防災会議

災害は家族が一緒にいるときに起こるとは限りません。いざという時に、あわてず行動できるよう家族で普段から話し合っておきましょう。また、災害に備えて家の中と外をチェックし、危険な箇所は早めに改善するようにしましょう。



話し合いたい項目

- ☐ 家付近の洪水浸水想定区域や、土砂災害警戒区域等の確認
- ☐ 災害が起こった時の身の守り方
- ☐ 家族間の連絡方法と、最終的に出会う場所
- ☐ 災害別の避難行動 避難所とそこへ行く経路。
- ☐ 家族一人ひとりの役割分担 家族の安否確認、非常持出品・備蓄品の準備・点検、避難経路の確保、隣近所への連絡など。

※乳幼児・高齢者・病人・妊婦のいる家庭はその避難方法も話し合しましょう。

我が家の安全対策を確認しましょう

安全と思われる家の中や家のまわりでも、災害時に避難や救助の妨げになったり、落下物によるケガなどの被害を引き起こすおそれがあります。災害に備えて日頃から点検する習慣をつけましょう。

家の中の安全対策



家の外の安全対策



災害時に特別な配慮を要する方々への支援

高齢者や障がいのある方など、災害時において特に配慮を要する方々は、特に地域の皆さんの支援が必要となります。

支援するときに心がけたいポイント

- 相手を尊重する 必要な支援だからと押し付けるのではなく、相手の意見に耳を傾け、それを尊重しましょう。
- 笑顔で接する 笑顔は相手に安心感を与えます。笑顔で接し、信頼関係を築きましょう。
- 無理な支援はしない 無理な支援は思わぬ事故につながります。自分にできる支援を行いましょう。
- 医療行為はしない 薬を飲む際の支援や応急手当を除き、医療行為は行わず医師などの専門家に相談しましょう。

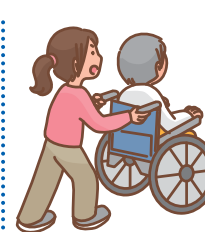
高齢者・病人

- おんぶ(または担架、リアカーなどを利用)して安全な場所まで避難する。
- 複数の介助者で対応する。



車いすを利用している方

- 階段では介助者2人以上が必要。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。
- 介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、おんぶして避難する。



知的障がいなどのある方

- やさしく声をかけ、相手を安心させる。
- 相手の気持ちを落ち着かせてから、安全な場所へ誘導する。



目の不自由な方

- 声をかけ、情報を伝える。
- 誘導する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持つてもらい、半歩前をゆっくり歩く。



耳の不自由な方

- 話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすいようにする。
- 手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報を伝える。



日本語が話せない方

- 身振りや手振りなどでコミュニケーションをとる。
- やさしい日本語を心がけ、積極的に支援の意思を伝える。



自主防災組織で地域を守る

自主防災組織とは、地域の皆さんが災害に対して協力し合う組織です。

自主防災組織を結成し、地域防災活動を行うことで災害に強いまちづくりを目指しましょう。

平常時の活動



作ろう、参加しよう、育てよう！

隣近所などで、互いに助け合い、協力し合える体制づくりをしましょう。



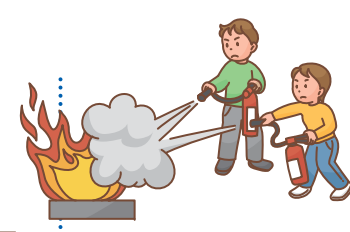
みんなで学ぼう！

防災に関する知識を身につけましょう。想定される災害と対応について話し合しましょう。



地域を点検しよう！

- 消火栓の上や防火水槽の近くに、障害物はありませんか？
- 避難場所を皆さんが知っていますか？
- 避難経路に危険な場所はありませんか？



訓練をしよう！

- 初期消火訓練
- 避難所の開設・運営訓練
- 避難者の誘導訓練

災害時の活動

初期消火活動

身の安全を第一に考え、消火器などを用いた初期消火の実施

避難誘導支援

高齢者や障がいのある方などへの避難誘導の支援

救出・救護活動

まず身の安全を確保し、その後、被災者の救出や救護活動の支援

情報の収集・伝達

災害に関する正しい情報を収集伝達

避難所での支援

水や食料などの配給支援や炊き出しなどの活動支援